

市民のひろば ～震災の記憶を後世に～

レポート②08

今月号は、市公認ご当地アイドル「アイくるガールズ」リーダーの須藤理央さんに、震災当時の心境やアイくるガールズとしての活動などについて、インタビューした内容をお伝えします。



須藤理央さん（アイくるガールズ）

Q 地震発生時はどちらで何をされていましたか。

東京の専門学校に通いながら、演技などの勉強もしていたので、地震発生の際は、東京都渋谷区のスタジオの中にいました。

Q 地震発生後、どのような行動をとられましたか。

その日は、電車が不通になったため、家に帰ることができませんでした。携帯電話もつながらなかったで、いわきの状況を知りたことも、家族や友人の無事を確認することもできず、不安な夜を過ごしました。

翌日、友人に車で送ってもらい、無事家に帰ることができました。

その後、両親と連絡が取れ、祖母や親戚と共に東京へ避難してきたので、二週間ほど、一人暮らしの私の部屋で一緒に過ごしました。

Q アイくるガールズに参加されたきっかけは何ですか。

震災後は、復興支援イベントなどに参加し、全国でフラダンスを披露していました。熊本県を訪れた時、招待してくれた方々がとても温かく迎えてくれたことをきっかけに、募金へのお礼や、いわき市の正しい情報、元気な姿をきちんと届けたいという思いが強くなりました。

そんな時、アイくるガールズの募集を知り、応募することにしました。

Q 昨年八月のCDデビューから今日までの活動を通じて、感じることは何ですか。

歌もダンスも未経験のメンバーがほとんどでしたので、デビューまでは厳しいレッスンが続きました。それでも、メンバー同士で励まし合い、スタッフやそれぞれの家族が協力してくれたおかげで、これまで頑張ることができました。



市公認ご当地アイドル認定式（10月27日）

ことができました。

また、ファンの方や会場に来てくれるお客さまにも、私たちが元気をもらえたと言ってもらえることで、私たちがたくさんの方の力をもらっているの、とても感謝しています。

Q 市公認ご当地アイドルに認定されましたが、今後、取り組んでいきたいと思うことは何ですか。

これからも元気と笑顔を一人でも多くの人に伝えられるよう、気持ちを込めてステージに立ち、いわきから全国、そして海外へと情報発信していきたいと思っています。

Q 市民の皆さんへメッセージをお願いします。

私たちと一緒に、いわきに生まれて良かった、住んでいて良かったという気持ちを取り戻せるよう、頑張っていきたいと思います。



いわき魚まつりでのステージ（11月9日）

災害といわき

其の九

昭和16年7月の台風被害とその後

昭和十六（一九四一）年七月二十二日から二十三日にかけて、大型台風が福島県浜通りや中通りを襲いました。同年七月三十一日付で県下の被害は死者三十二人、行方不明者五人のほか水防作業中に誤って死亡した者九人、と発表されました。

石城郡内では、この年長雨が続き、河川が増水していたところに来襲した台風。いたるところで水没し、河川堤防の決壊やがけ崩れ、通信・交通の遮断など、大きな被害となりました。

このうち、鮫川流域では死者・行方不明者二十人を出しました。その多くは河川敷の街道沿いに家屋を構えた料理店が流され、犠牲となったものでした（写真）。

昭和十六年度における石城郡関係の災害復旧予算を、昭和十六年十二月七日付の『福島民報警城夕刊』でみると、全体額約二百五十万円（現在で約十億円※）のうち、河川復旧費が最も多く約百八十万円で、うち鮫川および支流の河川復旧費だけで約百五十万円と過半数を占めました。また当時、鮫川の治水計画が計画されており、この事業費を加えると約二百十万円にも及ぶ、とされました。

多くの犠牲者を出した鮫川沿岸の町村では、災害



▲写真 鮫川の洪水で、河川敷を通っていた旧街道沿いの家屋が流され、木橋も流出〔昭和16（1941）年7月 渡辺徳太氏提供〕

※日本銀行調べによる「企業物価指数」で換算。

を機に危機感を強め、河川復旧と治水計画を併せた事業実施に向け、早期実現の要望運動を関係機関に展開しました。

しかし、昭和十六年十二月に日本は太平洋戦争に突入、次第に河川整備に予算を費やす状況にはなくなっていました。当初の計画も縮小され、その工事が完了したのは、戦争が終了し、日本全体が復興を目指した昭和二十二（一九四七）年度のこと。当初治水計画の実施はさらに歳月を費やし、完了したのは昭和三十四（一九五九）年度でした。

（いわき地域学會・小宅幸一）

11月17日(月)の市役所本庁舎、各支所・市民サービスセンターでの放射線量測定値

庁舎・支所	平(本庁)	小名浜	勿来	常磐	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	久之浜・大久
地上1m	0.113	0.036	0.046	0.063	0.051	0.055	0.058	0.061	0.058	0.071	0.073	0.074	0.132
市民サービスセンター	中央台	豊間	泉	測定時刻：10時 単位：マイクロシーベルト／時 出典：原子力規制委員会ホームページより									
地上1m	0.083	0.115	0.060	モニタリングポストは、マイクログレイ／時で測定されていますが、本表では1マイクログレイ／時＝1マイクロシーベルト／時と換算して表示しています。 ※久之浜・大久支所は、改築工事のため、当面、久之浜西公園での測定値を掲載します。									

※過去における測定値、平成22年度の市内の状況については、0.04～0.07マイクロシーベルト／時で推移していました。（福島県ホームページより）

水道水の放射性物質の測定結果 水道局では、市内全12浄水場の水道水を週3回（遠野地区の3浄水場は週1回）検査しています。現在の検査結果は、放射性ヨウ素・放射性セシウムとも、全て不検出（1ベクレル/kg未満）であり、安心して飲んでいただけます。

放射線に関する問い合わせ窓口（県設置窓口） ☎0120-988-359 平日：8時30分～18時30分 土日祝：8時30分～16時